

大正区



ごみゼロ

リーダー

ニュース



第15号

平成31年3月発行

「ごみ減量市民交流会2019」 が開催されました。

平成31年2月7日（木）に、大阪駅前第3ビルの大阪産業大学梅田サテライトキャンパスで開催されました。この交流会は、ほぼ毎年この時期に開催され大阪府内各市町村の廃棄物減量等推進員や地域住民、市町村のごみ減量担当者が集まりそれぞれ地域での「ごみの減量・3R」のさまざまな取り組みについて情報交換や意見交換を行うものです。今回は、三軒家東連合から2名の方が参加されました。



第1部として、大阪府寝屋川市の「ごみ減量マイスター」について、また同じく、守口市の「学びを力に行動を起こすー3R低炭素社会検定への挑戦から新たなチャレンジへ」について、事例発表がありました。寝屋川市の「ごみ減量マイスター」という制度は、広く一般の市民の方を対象に、行政が開催する講座を受講することで、行政が認定する制度です。ごみ減量マイスターは、発足当時の170自治会から現在マンションを含めると、240自治会に増えています。具体的な活動内容として、行政と市民との橋渡し役、ごみ減量の実践と啓発、地域への協力要請、ごみステーションでの分別指導など、地域で力を発揮している事例が紹介されました。

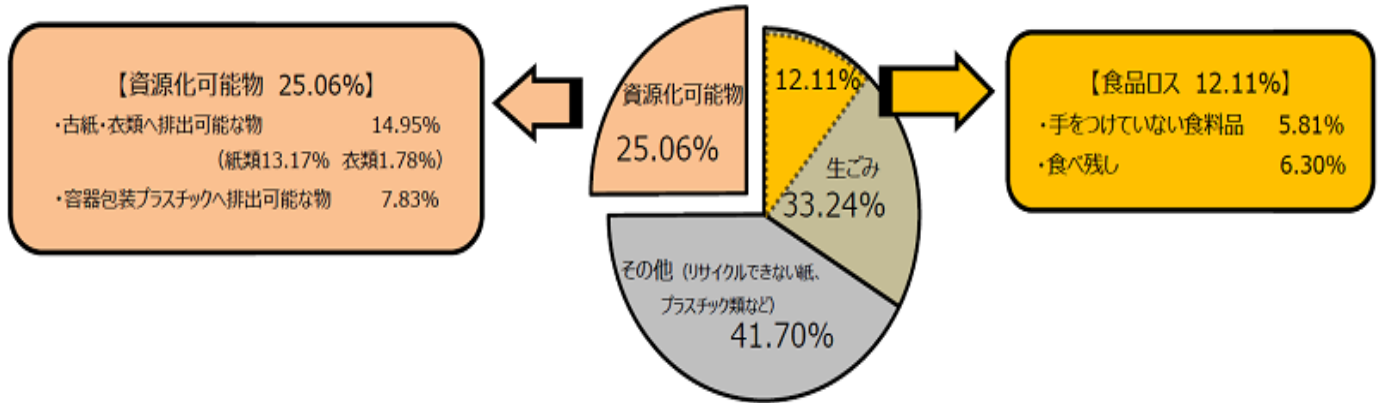


第2部は交流会が催され、「廃棄物減量等推進員の活性化」、「市民・事業者・行政の連携」、「食品ロスをなくすには」、「紙のリサイクルを進めるためには」、「イベントでのごみゼロ」、「びんのリユース・リサイクル」の各テーマで6つの分科会に分かれ、限られた時間の中で参加者同士、活発な意見交換が行われました。

ごみ減量に向けて

「分別率アップの取り組み」

家庭系ごみ（普通ごみ）の内訳【平成28年度一般廃棄物（家庭系ごみ）組成分析結果より】



家庭から排出された普通ごみの内容を調査したところ、分別収集の対象としている資源化可能物が約25%含まれており、そのうち資源化可能な紙類が約15%（資源化可能物の約6割）を占めていました。普通ごみとして排出されると、ごみとして処理されますが、コミュニティ回収（資源集団回収を含む）や週1回の古紙・衣類収集に分別

	資源ごみ	容器包装プラスチック	古紙・衣類
平成28年度 大阪市平均分別率	76.3%	39.6%	59.3%
平成28年度 大正区分別率実績	84.7%	53.7%	60.0%
平成37年度 大阪市目標分別率	79.5%	50.7%	80.1%

排出していただくと、貴重な資源として再利用することができますので、分別排出へのご協力をお願いします。

平成28年度の大阪市の分別比率に対して、大正区の分別率は、「古紙・衣類」が約59%に対して60%、「容器包装プラスチック」が約40%に対して約54%、「資源ごみ」約76%に対して約85%となっており、平成37年度の大阪市の目標分別率との差が大きい「古紙・衣類」を重点的に分別率アップを目指します。目標達成には、ごみゼロリーダー・地域・西部環境事業センターが一体となったごみ減量・3Rの取り組みや、地域住民、団体などからの要望により、ごみ減量やごみの分別などに関する講習会、勉強会などを開催し、コミュニケーションを図りながら周知活動へ繋がりたいと思いますので、皆さんのより一層のご理解・ご協力をお願いいたします。

《編集・発行》

大阪市環境局 西部環境事業センター

大阪市大正区小林西1-20-29

TEL:06-6552-0901 FAX:06-6552-1130

<http://www.city.osaka.lg.jp/kankyo/index.html>

